



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要	
建物名称	(仮称)恩田原2街区 物流施設建築工事
BEE	1.5 BEEランク A ★★★★★

2. 重点項目への取組み度	
重点項目	得点 [※] /満点
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5 /5
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1 /5
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1 /5
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	
評価 凡例	
よい 4点以上	ふつつ 3点以上
ふつつ 3点以上	がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.5	
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④外壁・給排水配管に長寿命材を採用	Q-1 2 2.1 2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3	②	昼光利用設備	
	3.2 3.2.1	③	昼光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数10%以上確保し、中高木を植栽	Q-3 1	⑤	生物環境の保全と創出	
	3 3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI=0.59 ⑨BEI=0.59	LR-1 1	⑦	建物外皮の熱負荷抑制
		2	⑧	自然エネルギー利用
3		⑨	設備システムの高効率化	
4 4.1		⑩	モニタリング	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型便器、擬音装置、自動水栓、節水コマの採用 ⑫グリーン購入法調達品目やエコマーク商品を採用 ⑬解体時の分別が容易な工法およびOA707の採用 ⑬ノンフロン断熱材の採用	LR-2 1 1.1	⑪	節水	
	1.2 1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
	1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
	2 2.1	⑪	材料使用量の削減	
	2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
	2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
	2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
	3 3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
3.2 3.2.1	⑬	消火剤		
3.2.2	⑬	断熱材		
3.2.3	⑬	冷媒		
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮省エネルギー対策	LR-3 1	⑭	地球温暖化への配慮	
	2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.1	
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰通信手段の多様化を図った、精密機器の地下への設置を避けている、緊急地震速報受信可能。	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯	耐震性	
	2.1.2	⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1	⑰	空調・換気設備	
	2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
	2.4.3	⑰	電気設備	
	2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.5	
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高を3.9m以上、壁長さ比率0.1未満とし、空間にゆとりをもたせた計画。	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1	⑳	階高のゆとり	
	3.1.2	⑳	空間の形状・自由さ	
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑メッシュファンにより死角空間をなくし防犯性に配慮した。	Q-3 3 3.1	㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.1
■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉔外構緑化指数10%以上確保し、中高木を植栽。	Q-3 1	㉒	生物環境の保全と創出	
	2	㉓	まちなみ景観への配慮	
	3 3.2	㉔	敷地内温熱環境の向上	
■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖卓越風向に対する建築物の見付面積比80%未満とした。	LR-2 2 2.5	㉕	持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3 2 2.2	㉖	温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®] - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v.1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)恩田原2街区物流施設建築工	階数	地上4F
建設地	静岡都市計画事業恩田原・片山土地	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	7地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年6月21日
敷地面積	23,356 m ²	作成者	寺川幸子
建築面積	14,269 m ²	確認日	
延床面積	49,790 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%) ☆☆☆☆☆ (60%) ☆☆☆☆☆ (80%) ☆☆☆☆☆ (100%) ☆☆☆☆☆ (100%超)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.0

生物環境 まちなみ 地域性・

Q のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

地球温暖化 地域環境 周辺環境

LR のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価です。 資源・マテリアル性に配慮し、環境負荷低減に努めた。		その他 特になし。
Q1 室内環境 評価対象外。	Q2 サービス性能 ゆとりのある階高と空間の自由さ、積載荷重の計画により、将来用途変更可能性へ配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地環境を考慮し可能な限り緑化に努めている。
LR1 エネルギー 断熱性の高い材の採用と高効率設備の導入により、環境負荷低減に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 建物の節水性に配慮している。ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った。	LR3 敷地外環境 消費エネルギー量削減により運用時のLCCO ₂ 排出量低減に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される